いはき

第十號

毎月三回 五日 十五 廿五日 發行

定價一部金一錢五厘外ニ郵税五厘

廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢回數行數ニヨリ割引ス

發行所 福島縣石城郡平町字白銀町二番地 いはき社

編輯人高木朝亞 發行人吉田禮次郎 印刷人高城寛雄

新聞雜誌及書籍類卸賣業 平陽社
東京市京橋區南八丁堀一丁目二十六番地
振替貯金口座七四壹
（いはき）特約販賣致候ニ付御注文被下度候

磐城平吉田禮次郎謹製
（一週間分 七貼入金[illegible]）
[illegible]
いぼぢ つこぢ
ねのぼり かみのけのぬけ
ずんのいたみ
痔病一切によし

言論

水産學校問題

水産學校設立の必要を叫ぶの聲、近來頗る喧しくなれり。去る八日の小名濱町會は、當局者の提出したる諮問案を是認して、水産學校設立の調査に着手し、去る十日雙葉郡富岡町に催されたる沿岸三郡聯合教育會にては、濱街道に縣立水産學校を設置する事を其筋に建議するの提案を通過せしめ、また去十一日平町に開かれたる、石城郡水産組合會にては、郡立水産學校を設立するの建議案を可決せしめたりといふ。

本縣の海岸線は延長三十里に及び、到る處に豐富なる漁獵區を控へ、漁業に從事する者も亦萬を以て算すべきものあるにも拘はらず、水産物の數量價格等が他府縣に比して甚だしき遜色ある所以のものは、主として斯業に關する智識技術の不進歩に原因するものなれば、水産學校を設立せざるべからずとは、夙に識者の認めて唱道したる問題なれども、不幸にして公衆の顧みる所とならず、輿論となる能はざりし次第なるが今や各種の社會より、口を揃ひて之が設立を要望せらるゝに至りしは、正に機運の熟せるを證するものに非ずして何ぞや。

水産學校設立に對する輿論は、盛に喚起し來れども、其内容は種々雜多にして、未だ統一したる成案も現はれず、或は町立の乙種實業學校にせんと欲し、或は郡費の經營に任せんと望み、或は又縣立の甲種實業學校たらしめんと求め、區々にして一定する所なし、蓋し最も實行に易きものを撰まば經費を投ずること少くして、短時日の間に多數の卒業生を出す所の、町立の簡易實業學校を取るべきなれども、斯の如くんば其設備上より餘儀なくせられて、收容學生の數に窮屈なる制限を加へざるべからざるに至り、從て學校の及ぼす利益は狹小なる範圍に止まり、斯業の智識技術を普及する能はざるべし。かゝる遺憾を除去する方法として、規模を稍々擴大したる郡立學校とせば可ならんとの論者もあらんが、今日の貧弱なる郡歳入中より水産學校の經費を支出することは、實に困難の業なるのみならず、小地域内に於ける各町村の利害甚だ不平均なれば、郡會は容易に通過せしめざるべく、幸にして可決したりとせんも、到底多額の經費を支出し得ざるは明瞭の道理なるを以て、町村立學校よりも多分に優れる事能はざるを信ず、されば吾人は水産學校設立の事業は、是非とも縣の經營に任せざるべからずと主張する所以なり。

熟々本縣の現狀を見れば、土木治水の事業や、蠶業學校の建築など經營を急ぐべきもの頗る多く、縣民の負擔も重き事たれば、今俄に水産學校を新設する事は、困難なりとして當局者の拒む所とならるやも知れず然れども教育機關なるものは諸經費の乘餘を以て施設すべき性質のものに非ず、殊に濱街道筋に於ける水産學校の如きは、他の一二の事業を一時中止するも、急で着手せざるべからざる緊要事なれば、我地方選出の縣會議員諸君は宜しく案を具して來るべき通常縣會に臨み、各自黨派的偏見や地方的感情を捨てゝ、協力一致其通過に盡力せらるべく、又三郡人民たるものは自家と直接重大なる關係を有する問題なれば、堅固なる決心覺悟を以て議員諸君の後楯となるを要す。

水産學校を設立する事に就ては、三郡中一人の異議者もなからんが、土地の撰定には幾多の異見を生ずべし、併しながら吾人は今日公平なる世論の歸する、小名濱港を以て最も適當なる地點と信ず、港灣の良好にして交通に便利なる縣下他に其比を見ず、況んや既に水産試驗場の設置ありて、之と聯絡を保てば經費も亦大に節減するを得るに於てをや。

願はくは公平なる心を以て眼を大局に注ぎ土地の引張合ひのために事業の成功を妨ぐるが如き世の惡例に學ばず、海岸地方の一大問題たる水産學校の設置をして首尾よく成就せられんことを。

雜錄

衛生餘談

水魚庵

▲衛生思想の普及は目下の急要件なれども普及の方法手段に一も見るべきもののなきは遺憾の次第に候殊に村落農家の食器の不潔食物取扱の不淨なるは傳染病傳播の主因に有之候春夏秋の三期を通じて飯鍋の蓋を取れば群蠅一時に飛び立つこと普通にて平氣で其飯を食し居り候一疋の蠅より數個の微菌を飯上に移殖せらるゝとすれば飯上の微菌は無數にて中には病菌も必ずあることゝ存候燗德利は口も蓋はずに棚の上に置かれ直に之に酒を入れて燗するが故に杯の中には塵埃や小虫の屍が浮ぶことは度々に候之を指や箸の尖にて取り除け平氣で飲用致候戸棚や抽出に久しく仕舞置きたる吸物椀を出して拭ひもせずに吸物を盛る故に蓋には塵が積り居り候甚しきは手鼻をかんだり赤兒の小便を始末した手の掌に豆腐をのせて之を鍋の中に切り込み申候客に供するに此位なれば平日家族に供するものは思ひやられ候右の有樣なれば家族中一人傳染病に罹れば家族全体が罹病を免れぬことなども珍しからずと存候何とかして食物食器を清潔に取扱ふと丈も教へ込たく見聞する度思ひ出候も年來の習慣といひ且衛生思想普及の方法手段が整ひ居らざれば致方無之候學校の教員役場の吏員などが注意してくれたら幾分か効能あらんと思ども如何のものにや村落に衛生講話會などを開くも一手段なるべけれど第一に村落の主婦等に聞せなければ効能少きことゝ存候

▲白地の肌着は汚れ目が見えていかぬ故黒地紺地の物がよろしとは世人の一般稱ふるところにして殊に夏期小兒などには可成黒地を着せ候が之は大なる間違なるへしと存候白地を一週間着て汚れ目が見ゆるならば黒地を一週間着ても白地と同し程度に汚れる筈にて只目に明かならぬ丈に候白地を一週間着て既に身体に害ある程に汚るゝならば黒地も一週間にして同じく身体に害ある程に汚れる道理に候然るにそれが目に見えぬからとて二週三週甚だしきはそれ以上も洗はずに着用するとは暗夜に毒を飲むと同じことにて恐の甚しきものに候白地は一週間も着れば汚れ目が見えて如何に怠ける妻君たりとも見て居られぬから洗濯すべく黒地は永く汚れ目が見えぬ故に永く洗濯せずに着用し却て害多し故に夏は勿論冬も肌着などは白地を用ふが自然衛生に適ひ申べくと存候但し妻君の不同意は請合に候も此儀は何とか談判否説諭の道あるべしと信じ候

いはき文壇

和歌

玉蜀黍をわたる秋風身に浴ひて畦にし立てば思ひみだるゝ　醜骨

大いなる榮光は望まずぬか星のかすけき影の慕はしきかな　著村

老いませる御母こひしき西の空夏山野雲はるかなり　草村

身にしむは何の思ぞ秋の風遠き旅路にひとりさびしき　輕飄

君として語らまほしきまはしや月をのせくる波おもしろき　波樂

戈とりて明日は凛々しきますらをとなる君なれば笑みて送らん　新兵

此秋を憂きに堪へざる人もあるにつれなからずや『おもしろき』とは『人へ』　秋柴

漢詩

孟母斷機圖　清軒　三田智光（磐城）

勿謂母賢兒亦聰
斷機始得啓其蒙
誰知孔後大聖哲
本是鄒村一狡童

蠶　小筠　神林晋（磐城）

著述曾無成輔業
文章寧有吐絲才
憐他滿腹經綸在
衣被生靈幾萬家

俳句

南無阿彌陀の寶飛びぬ寺の池　掬水

月冴えて見頃になりぬ磐城富士　鳳草

くだち行く潮風さむし后のつき　旗振

花賣りのかごに重たき黄菊かな　賤女

旅僧のひとり野をゆくあきの雨　杏仙

秋の雨はれて長夜のはうきぼし　山水

菊咲いてわら家の秋の面しろき　紅奴

あき雨や棧道のくもおもむろに　破笠

當季俳句を募集す

黄雲會小集（第一回）

十一月十日午後二時よりいはき社の一室に集まつたのは佐川碧雨鈴木鳳草菊池珠郷永田芳生坂梨半嶺伊東一二及小生と都合七名先づ會場の屏風に書いてある『黄雲云々』の題詩を取て會の名を黄雲と命じ唯集まつて散ずるだけでは興味が薄いから何かやらうとて鳳草子は俳句珠郷子は和歌碧雨子は短文の題を出した皆苦心慘憺して居る所へ久の濱の鈴木紫雲子が[illegible]色めいて來たランプを出して[illegible]へた頃終列車に乘後れないやうにとて紫雲子は去た[illegible]の作物中和歌と俳句だけを次に載せ短文の方は新年號に掲げる事とし（[illegible]）

初しぐれさとの母より柿來ぬ　芳生

初時雨[illegible]　碧雨

[illegible]　鳳草

[illegible]初時雨　珠郷

[illegible]初時雨　半嶺

山茶花

うすき日さす垣にこぼるゝ山茶花に淋しみ迫る冬は來ぬらし　[illegible]

[illegible]

磐城怪火 閼伽井嶽の龍燈

磐城中學校教諭　岡田穀三郎

第五章　文献上の龍燈（下）

九　釋居山、居山は磐城平町調寶山長源寺第十七世の住職にして詩を善くす、其[illegible]閼伽井嶽の詩に

[illegible]

十一　竹内東仙、名は貞、字は誠甫、二本松の人[illegible]明治二十二年五月赤井嶽に登山の時の詩に

[illegible]
無風無月天深黒、初見燈明出現時。
[illegible]

十二　大須賀筠軒、名は履、通稱次郎、磐城[illegible]曾て第二高等學校教授たりしが職を辭し目下仙臺市に在り、其[illegible]

[illegible]

平町五丁目　遠藤齒科醫院　電話浪花三三七一番　電信發送略符（ヤ）

徴兵適齢者並に學校生徒には治療料輕減の規定あり殊に貧困者には無料にて治療の規定あり　中嶋眼科醫院　磐城平町紺屋町

精撰牛乳　乳質純良　消毒完全　配達迅速　磐城平町北目町　磐城牛乳舍

増田製[illegible]　特約大販賣

寄書

廣告論（三）

在京　白雲峯

三　廣告ノ機關又ハ場所ノ選擇

廣告の機關又は場所の選擇をなすにつきて注意すへきは自己の商品が如何なる階級に需要者を有し、如何なる社會に消費者を有するやの問題なり、即ち其の需要者消費者の存在する方面に從ひて廣告する機關又は場所の選擇をなさゞるべからず、之れを是れ顧みずして單に廣告すれば即ち足れりとなし、貧民街に新着太物の廣告をなし、又は青年雜誌に米穀の廣告をなすが如き共に迂遠なるを免れず、一旦、其の機關又場所の選擇を誤る時は如何に巧妙なる廣告も效果至て少く、徒に冗費の多きを歎せんのみ省みずんばあるべからず、即ち貧民街には古着古物又はらんぐん米の廣告をなし、青年雜誌には青年學生の需要する商品即ち文房具、運動用具、又は書籍等の廣告をなすべきなり、旅館の廣告は旅行案内紙上若しく停車塲前に於てすべく、化粧品は文藝倶樂部の如き小說雜誌又は婦女新聞雜誌に之を掲け、肥料種物類は之を町端れ又は農藝雜誌等に於てすべし、賣藥の如きに至りては如何なる場所、如何なる機關に於てするも差支なきが如し、

又新聞雜誌の類も各自其の購讀者を異にするものなり、或者は中等社會に多數の讀者を有し、或者は下等社會に、或者は上流少數者にのみ購讀せらるゝものあり、之等の區別により廣告も亦其の方面を選ばさるべからず、又販賣の急不急を考へ、若くは季節の如何を省み、以て日刊、週刊又は月刊を選擇せさるべからず、

四　廣告ノ時期

商品は季節により其需要の程度に厚薄あり或は全く其の種類を異にするものあり、例ば夏は納涼器歡迎せられ、冬は防寒衣切望せらる、同しく帽子といふも冬季麥藁帽を買ふものなく、夏季鳥打帽を用ゐるもの少し則ち商品は其の需用の季節自ら一定せるを以て、能く此時期を測りて廣告せざるべからず、春初花將に開かんとするの時に當りては流行衣を提供し、秋晩寒將に嚴ならんとするの時に際しては手袋外套を廣告するが如し、

次に考へざるべからざることは需要者の購買力なり、之亦時期により大に其の程度を異にせり、官吏、會社員等月給によるものは月末最も購買力強し、海外に於ては勞働者會社員等は土曜日毎に給料を受くるを習慣とするが故に次週の初は則彼等の最も購買力に富める時期なりといふ能く之等の時期を察して廣告をなす時は容易に彼等の購買心を促し、商品の販賣を速にすることを得べし、

雜報

◎兒童出席歩合（二）

前號の續き左の如し

校名	在籍兒童數 男	女	計	出席歩合
平窪二尋	四三	五三	九六	九六、〇〇
神谷尋	一五七	一三五	二九二	九八、一〇
草野尋	五六	四三	九九	九九、八三
大浦尋	一五〇	一三一	二八一	九八、〇八
大野尋	八四	六八	一五二	九〇、二六
大野二尋	一一五	一〇四	二一九	八五、一四
大野三尋	三一	三〇	六一	九八、三六
小川二尋	四七	三七	八四	九六、二五
川前尋	二五	二五	五〇	九〇、〇〇
桶賣尋	五三	五〇	一〇三	九〇、五五
代用炭尋	二〇三	一三一	三三四	九一、九〇
泉高	一二三	六四	一八七	九四、〇二
渡邊高	二八	二一	四九	九八、三一
菊多高	二九八	一〇九	四〇七	八九、九六
窪田高	一五六	七四	二三〇	九三、五〇
上遠高	一三五	六〇	一九五	九三、四〇
入遠高	八五	三二	一一七	九二、六一
平高	五二一	三三九	八六〇	九五、六四
小名濱高	二四一	一二一	三六二	九五、七五
内郷高	一八三	一二五	三〇八	九四、三〇
飯野高	七五	四一	一一六	九五、一二
夏井高久高	一五三	五三	二〇六	九六、一四
江名高	八七	四一	一二八	八三、四三
磐崎湯本高	二一〇	一四二	三五二	九五、六八
澤渡高	四四	四一	六一	九四、五〇
渡戸高	三九	七	四六	九五、四五
四倉高	九六	六一	一五七	九三、二八
神谷高	一〇一	四〇	一四一	九七、二八
草野高	一三三	三九	一七二	九八、〇九
大浦高	一〇〇	四六	一四六	九七、二九
大野高	一一〇	三一	一四一	九四、四六
小川高	一四一	四三	一八四	九三、〇六

◎戸籍吏例會

石城地方戸籍吏例會は去十三四の兩日平區裁判所内に開かれたり兩日とも高宮監督判事は清水監督書記を隨ひて臨席し各町村戸籍事務の擧否につき一々例を擧げて注意訓戒を與へ夫より同判事の戸籍上に關する有益なる講話ありて閉會せりと

◎就學旗下附

郡内小學校中今年度に入り就學旗を下附せられたるもの左の如し

▲一等就學旗の分　十三校

飯野第一尋高、仝第二尋、好間第一尋、仝第二尋、鮫川尋、矢田尋、平窪第一尋、仝第二尋、夏井尋、磐崎二尋、玉川尋、草野尋高、仝第二尋

▲二等就學旗の分　廿一校

平尋高、豐間尋、江名尋、仲ノ作尋、神白尋、湯本尋、渡邊尋高、赤井一尋、仝二尋、大浦尋高、大野尋高、仝二尋、仝三尋、磐崎一尋、藏持尋、四倉尋高、神谷尋高、内郷尋、仝二尋、上遠野尋高、神山田尋、

◎本縣の豫算

縣參事會の審査を經たる明年度の本縣豫算の總計は左の如し

歳入經常部	一、三八二、五五六圓
仝　臨時部	八四、七七七
歳出經常部	九六八、四五二
仝　臨時部	四七七、四六六

◎聯合馬匹共進會

石城郡産馬組合にては雙葉郡と聯合して馬匹共進會を開催する事に就て交渉中なりし所此度愈々纏まりたるを以て去る十一日石城郡役所内に各支部長及び關係吏員の協議會を開き豫算金千二百圓を支出し明年三月廿九日より三日間平町に於て開催することに決し左の委員を撰びたり

委員長　大森吉哉　委員　伊阪員正

田目幸太郎　會田市松　柳内伴藏

野紋次郎　田子英吉　小宅幸三

根俵太郎　草野高藏　駒木草生

なほ出陳馬匹は二歳より五歳迄の牝馬六十頭外に參考として牡馬十頭なりと云ふ而して代議士縣會議員郡會議員産馬組合員有志家等五百廿餘人を招待すとの事なれば明年三月末に於ける平町は非常の賑ひなるべし

◎選擧有權者數

石城郡各町村に於ける衆議院議員選擧有權者數は左の如し

町村名	人員	町村名	人員
泉	二〇一	渡邊	一二七
鮫川	一七一	川部	一〇七
山田	一五一	田人組合	六三
錦	一六九	平	三一九
窪田	一七二	飯野	一四六
上遠野	一五七	夏井	一三五
入遠野	一〇三	高久	一二七
豐間	五六	江名	八一
鹿島	一二七	小名濱	八六
玉川	一五五	磐崎	二二五
湯本	九八	内郷	一七八
好間	二〇七	赤井	一九三
永戸組合	一一八	三阪組合	一四五
神谷	一九三	草野	二六三
大浦	一四四	四倉	七三
大野	一三六	平窪	二二五
小川組合	一六〇	川前	二四
計	五、二二四		

◎製糸講習科卒業

去月十日石城郡蠶業講習所製糸講習科を卒業したる者は左の如し

（研究生）篠山ひさ　高萩てい　吉田たか　村田いせ　五十石とみ　鈴木むめよ　矢吹よし　鈴木たかの　丹野かねよ　高木てふ　松本みよ　箱崎ちよ　猪狩たけよ　蛭田きい　賀澤ふよ　折笠たね　藤内みか　酒井うら（聽講生）高木ひろ　畠山ゆう　鈴木ふぢ　山崎ひで　山崎たの　鶴澤ため　大森あさよ　吉田たに

◎三郡聯合教育會

相馬雙葉石城三郡聯合教育會は去九十の兩日雙葉郡富岡小學校に於て開催せられたり九日には會員の十五分演說十日午前には蛭田富岡郵便局長佐々木久之濱校長等の演說ありたる後建議題に就て討議し午後は藤堂事務官下田技手岡田教諭等の演說ありて午後四時閉會せり建議題の主なる者は左の二件なり

一縣立水産學校を濱街道に設置するの件

一敎育点呼を行ふ事を其筋に建議する件

◎相馬郡會

相馬郡にては去十一日臨時郡會を開き役員選擧を行ひしに其結果左の如く全部政友派の勝利に歸せり

議長　佐藤正信　副議長　加藤哲二

參事員　林庄太郎　荒高太郎　渡部俊雄

阿部鶴五郎　滋佐常治

◎小名濱青年夜學會

石城郡小名濱青年會にては例年の如く去る十一月三日を以て夜學會の發會式を小學校にて擧行しそれより茶話會を開きて懇談したる後閉會し翌日より毎夜小學校敎員を講師として夜學會を開き來り出席者目下十五六名あり今後農事多忙の期を過ぐれば更に出席者の増加を見るべしと云ふ因に同會に要する油薪代其他の雜費は水野忠治氏及び佐藤德兵衛氏の未亡人つる子の寄附にかゝる由

◎水野氏の美擧

小名濱町水野忠治氏は布敎に熱心のみならず頗る敎育事業に同情を有し是迄小學校の卒業式運動會等に金品を喜捨して盡す所少なからざりしが同町青年夜學會にも其費を投じて吝まず今年度は又十數冊の敎科書をも寄附したりと

◎平町入營軍人送別會

去十七日平町一丁目山形樓に於て平町青年者發起となり本年度入營の壯丁に對し送別會を開く會する者百五十此日早朝より會場へは各團々旗を以て幔幕となし『歡送平町入營軍人』と云ふ大旆は軒頭高く飜り正午よりは烟火を打揚げ會衆の來るを待てり午後二時開會發起人總代開會の辭を述べ入營者總代廣田德行氏答辭を陳ぶ配膳の間二三青年者の壯快なる演說ありき主客歡を盡して散會せしは午後四時頃なりき實に近年稀に見るの盛會なりし因に本年平町の一年志願兵は廣田德行、松原貞治、三森直次の三氏なりといふ

◎松村氏令息の卒業

平町南町醫士松村高知氏の令息鐵郎氏は今回仙臺醫學專門學校を卒業せられたり

◎水産組合會

石城郡水産組合にては去る十二月郡役所内に總會を開き左の諸件に就て協議せり

一四十一年度歳出入豫算（八百三十九圓）

一郡立水産學校を設置せられんことを建議するの件

一浴岸三郡中に港灣を設備することを其筋に建議するの件

一近縣の水産視察の件

◎石城郡參事會

十一月十五日午後一時より郡會議事堂に於て開會せる石城郡參事會の議案は左の如くなり

一四十年度郡歳出豫算更正の件

一三十九年度郡歳出豫算中殘金繰越の件

一四十年度郡歳出入豫算追加の件

一大野村西山清重提出郡會議員當選の効力に關する異議申立確定の件

◎本郡の養蠶

わが石城郡の養蠶業は廿年前に於て大に勃興したりしも其後種々なる事情のため其發達を妨げられしのみならず甚だしく衰廢せしに成田前郡長の奬勵と郡民の覺醒とにより爾三年漸々振起し來りて本年の如きは左表の如き多くの收獲を見るに至れり

町村名	春蠶收獲 石	夏蠶收獲 石	秋蠶收獲 石
豐間	二一	―	―
四倉	一七三	二八	三〇
大浦	二一	―	四六
飯野	九六	七三	六〇
渡邊	八五	二〇	四六
平窪	二九九	五五	一九二
高久	七〇	一	一四
田人	一五一	三五	―
大野	一七二	―	―
玉川	二〇	八	二
好間	二九	六五	一五〇
川前	二九二	二〇〇	六〇
小川	三四	一七五	二九
上遠野	一三九	二五〇	五〇
錦	二五〇	六	八〇
澤渡三阪	五〇三	二五三	四六
入遠野	三〇〇	一九九	七二
神谷	二六	九	四八
鹿嶋	八	―	五
窪田	六八	一〇八	三六
山田	一五三	―	四二
小名濱	二	一四	―
草野	一六六	三三	三
箕輪永戸	一四六	二八	八三
鮫川	六三	―	二四
夏井	六五	―	四八
湯本	三三	二四	五
磐崎	一〇〇	五五	二七
平	六〇	[illegible]	三六
川部	一五四	五四	一三〇
内郷	一二七	五	一三三
赤井	一五一	三〇	三
夏井	六一	―	四八
計	四、七二四	二、四七八	一、七三二

◎小名濱町會

去八日の小名濱町會には注目すべき問題多かりし中にも最も重要なるは港灣設備調査に要する費用を縣費より支出して至急設備經營の儀を縣知事及縣會議長に請願するの件及町立水産學校を設立するの件等なりしが前問題は直に可決確定し後者に就ても一人の異議者なく國庫縣税郡費等の補助を受け且町の負擔にして五六百圓位にて濟む事ならば設置すべきにより更に理事者をして調査せしむる事に決せりなほ助役鈴木榮氏は十八日を以て任期滿了につき改選を行ひしに滿場一致にて再選せられたり

◎馬糶開市

別項にも記載したるが如く石城郡産馬組合にては明年三月廿九日より三日間平町に於て馬匹共進會を開きたる後四月一日より三日間優等馬匹の糶市を開くとの事なり

◎奈古會丸の進水

小名濱なる本縣水産試驗場にては兼て長四十四呎幅十三呎六吋深六呎總噸數十九噸帆裝けつち形の遠洋漁業船を三重縣大港町市川造船所に托して建造中の所去る十五日進水式を終へ艤裝中なれば遠からず小名濱港に回航すべしと

いはき廣告御取扱
久保木民之助

◎無題錄

平町の辯護士中最も奇行に富で居るのは尾崎幾三郎であろう▲氏の酒好きは非常なもので三食ともに銚子が附かなければ決して箸を取らない▲されば酒氣は常に氏を離れない微醉氣嫌で法廷に出で同僚や判檢事の辯論を聽き乍ら盛にヒヤヒヤノー〳〵などゝやつて檢事のお目玉を頂戴した事もある▲磊落も亦無類で唯一領がない大事の袴も折々は酒の代に曲げられ袴なしで裁判所に出で頗る滑稽な手振りをしながら君すまないが其袴を一寸――▲懐中の温かな時の氣焔は素張らしいオイ馬車はどうした僕は此頃二頭馬車に乘ることにしたのだよ萬事この調子だから可笑しい▲氏は又女に掛けてもなか〳〵凄腕を持て居ると見え漢學者某の妾であつた何村とかいふ下宿屋の主婦をうまく說き落した爲めに漢學者は大に焼いて度々何村下宿屋に怒鳴り込んだとの評判もある

新年號發行に就て

注意

本會諸般の報導は今後『いはき』紙上に掲載する事と致し候に付會員諸君は此旨御含み置き下され度候

磐城育英會

▲資金納附　資金は毎年一口に付十月二月六月の三期に一圓宛納附する規定なるも發起人會に於て來四十一年九月より學生の貸費を開始する事に決したるを以て四十年度分第一期即本年十月第二期四十一年二月第三期即四十一年六月の三期分を繰上げ本年八九十の三ケ月内に納附する事に是亦發起人會にて議決したるものなり故に今一口に

一口　櫛田榮太郎　三瓶仙輔　△飯田一二　海野文藏　門島貞藏　○吉田至誠　草野三郎　○村上清通　△菊地安之助　○加藤豐文　△猪狩文郎

○岡田毅三郎　遠藤要　兵太郎　會田照次郎　中根卯之松　草野晴次郎　○藤本政吉　△吉田政久　永山菊治　中山元司　○和田龍太郎

○田子長三郎　○木川金太郎　○齊田本盈　本城藤一　松本龜藏　○日向英行　平松久徴　△大坪雪江　○山崎留治　江尻庄作　○松本龜吉

野田庸信　齋藤淺次郎　鈴木精平　木田喜一郎　植竹學俊　小松己之吉　大舘數彌　江尻良作　野崎長内　白石鶴吉　小野理八　三井

熊谷松次郎　高木酉次郎　小野忠五郎　鈴木市太郎　武藤英武　吉田喜久藏　○永山子之太郎　野崎喜代松　白土吉三郎　草野長三郎　井村興安　中村直敬

木田敏也　川嶋道直　◎大越茂造　木田彌つね　額賀啓助　大平惟精　大野伊勢松　箱崎庄太郎　佐藤亦太郎　赤津信人　緑川泉七郎　永山

靴下帽子等の編物類の慈善販賣をなし其利益は擧げて寄附するとの事なれば同情ある諸君は來る三十日田町日本基督教會にて購求せらるべし

▲中學校の發火演習　磐城中學校にては廿二日石城郡平窪村方面に於て第四五年生の發火演習を行ふとの事なりしも本號の編

トウシヨバコ

▲面白嘉郎君の三幅對募集には僕も大贊成につき先づ下の如く見立てた女流交際家中村千貴氏夫人、辯護士夫人三井商店老夫人氣取家女學校の鈴木銀行の中野中學校の田邊勉強な商店は長橋町の植頭商店一町目武田商店四町目菅野屋商店などは如何ですか（面黒太郎）▲平郵便局に對して非難の聲が盛です注意しないとでますよ（忠告生）▲裁判にはバカにイバル書記が居る（石城人）▲明智君軍人送別會の御骨折を感謝します（一軍人）▲ガタ物屋の若旦那はよく客といさかひをなすとか（二丁目生）▲二町目酒井屋の若主人は商賣に熱心で客當りがいゝ（得意客）▲紺屋町大竹屋の娘は親切で親孝行で中々感心なものです（さ滑子）▲郡役所前通り某荒物屋の主人は多年御屋敷の飯を御馳走になつただけ有て殘酷でまた高賣りである（驛夫）▲ビツコ万は某辯護士の未亡人を泊めて置くマサカ藝妓にするつもりでもあるまへが（見た人）▲田町の大先生樣は高利貸とモグリ書畫屋で喰てますよ（瘋狂）▲記者さん小說の作者は盜賊學校の卒業生なんですか（好小說家）▲平陽及藤田兩裁縫學校生徒だちよ何故なればさばかり身なりに心を苦しむるや其の美はしき着物の下よりきたなき品性のあらはるゝに非ずや（犢カラ生）▲湯本の屋上制限案は村會で否決になりそうな勢なので駐在巡査は各什長に贊成を求め必死の運動中なので追々大字大會を開くとか木羽葺よりは土藏造りの方が防火にも外觀にも好いのは誰も知て居る併し縣下でも此制限のあるのは僅に數個所に過ぎないのに若しも可決が一小村落の夫程の必要もあるまい若し出來ない者が有たら村の方がふきかへてくれるだろうか（公民の擧）▲當春の大火で燒けた者は勿論災を免れた者も非常の困憊を來して居るのに或少數者の外は所得税は新に課せられ又大した増額なので税務署へ出て事情を陳べても一向に取合てくれず甚だしきは今年の所得税に不平を云ふ者には來年は増してやるなどゝ曰はれて何れも不平々々泣寢入りだ（湯本生）▲平町のゴミ函はあまり小さいためにいつも不潔物が道路に落ちこぼれて甚だ不體裁だどうか改良して貰ひたい（潔癖生）▲一万五千の人口を有する平町に一個の共同便所もないと云ふは何ごとぞ（不仕末生）

臨時生徒を募集す
平町一丁目
私立磐城青年學校

トウシヨバコ

▲面白嘉郎君の三幅對募集は僕も大贊成につき先づ下の如く見立てた女流交際家中村て貞氏夫人關辨護士夫人三井商店老夫人氣取家女學校の鈴木銀行の人中野中學校の田邊勉强な商店は長橋町の植頭商店一町目武田商店四町目菅野屋商店などは如何ですか（面黑太郎）▲平郵便局に對して非難の聲が盛です注意しないとでますよ（忠告生）▲裁判にばバカにイバル書記が居る（石城人）▲明智君軍人送別會の御骨折を感謝します（一軍人）▲ガタ物屋の若旦那はよく客といさかひをなすとか（二丁目生）▲二町目酒井屋の若主人は商賣に熱心で客當りがいゝ（得意客）▲紺屋町大竹屋の娘は親切で親孝行で中々[illegible]く感心なものです（清子）▲郡役所前通り菓[illegible]物屋の主人は多年御屋敷の飯を御馳走になつただけ有て殘酷でまた高賈りである（驛夫）▲ピツコ万は某辨護士の未亡人を泊めて置くマサカ藝妓にするつもりでもあるまへが（見た人）▲田町の大先生樣は高利貸とモグリ書書屋で喰てますよ（癲狂）▲記者さん小說の作者は盜賊學校の卒業生なんですか（好小說家）▲平陽及藤田兩裁縫學校生徒だちよ何故なればさばかり身なりに心を苦しむるや其の美はしき着物の下よりきたなき品性のあらはるゝに非ずや（辯カラ生）▲湯本の屋上制限案は村會で否決になりそうな勢なので駐在巡查は各什長に贊成を求め必死の運動中なので追々大字より大會を開くとか木羽葺は死に葺それよりは土藏造りの方が防火にも外觀にも好いのは誰も知て居る併し縣下でも此制限のあるのは僅に數個所に過ぎないのに高が一小村落夫程の必要もあるまい若し可決の出來ない者が有たら村のれ方がふき換へてくれるだろうか（公民の聲）▲當春の大火で燒けた者は勿論災を免れた者も非常の困憊を來して居るのに或少數者の外は所得稅は新に課せられ又大した增額なので稅務署へ出て事情を陳べても一向に取合てくれず甚だしきは今年の所得稅に不平を云ふ者には來年も增しやるなど云ふ日はれて何ゴも不平滿々泣き入りだ（湯本生）▲平町のミ函はあまり小さいためにいつも不潔物が道路に落ちこぼれて甚だ不体裁だどうか改造して貰ひたい（潔癖生）▲一万五千の人口を有する平町に一個の共同便所もないといふは何ごとぞ（不仕末生）

臨時生徒を募集す
平町一丁目
私立磐城青年學校

新年號發行に就て

▲本誌は誕生後第一回の新年を祝賀しかねて讀者諸君が平素の深厚なる御同情に酬いんが爲め明年元旦には特に新年號の臨時增刊を行ふ

▲新年號の紙面は殊に之を倍加し記載事項を豐富にして新春の好讀物たらしめんとす

▲新年號に掲載するために普く各種の投書を募集す振て御投寄あれ

募集課題は左の如し

小說	短編題隨意百五十行以內
美文	題隨意五十行以內
和歌	社頭松、其他新年に因めるもの
漢詩	新年に緣あるもの
俳句	新年、松
新体詩	題隨意　廿句以內
狂歌	新年、雜煮、酒
狂句	萬歲、笑、福
短文	新年　百字以內
一口話	題隨意

其他種類の何たるを問せず大に歡迎す

▲新年號は特に數千枚を増刷して廣く各地方に配附するが故に廣告の効能著大なり

▲年賀廣告は特別强勉を以て貴需に應ず

▲各種の投書及廣告は十二月十日を以て締切り期に後れたるものは次號に廻す

注意

本會諸般の報導は今後『いはき』紙上に掲載する事と致し候に付會員諸君は此旨御含み置き下され度候

磐城育英會

磐城育英會

▲副會長選擧　去月廿七日發會式閉會後引續き總會を開き副會長成田直忠氏辭任に付其後任者を選擧せしに滿場一致にて中村直敬氏當選せり

▲決議　二十七日の總會に於て自今會員は必ず一口以上の會員を紹介する事

▲會則改正　第十一條中評議員十六名とあるを十六名の三字を削除する事

第十二條中評議員の三字を削り公選とあるを次に「五口以上加入の會員を評議員と」の十四字を挿入する事

全條に「但一口以上四口以下の會員中より評議員十名を公選す」と追加する事

第十五條を正副會長に缺員を生じたる場合は評議員會に撰任を委託すと訂正す

第四十四條中「他地方人にして」の七字を削除すること

▲畫伯の寄贈　目下平町に滯在中なる畫伯佐野石篆氏は育英會の美擧を賛し中畫箋に菅原道眞の古裝せる畫を揮毫し發會式の當日寄贈せり

▲大越未亡人　故大越中佐未亡人つね子は同會則第四十三條に依り一時金十七圓を即納し會員となりたり是一時即納者の嚆矢とす因に記す同時に金三圓を寄附して贊助員ともなられたりと

麝香石鹼　玉蘭　東京馬喰町　淺井支店

▲評議員　會則第十一條の改正に基き山崎藤太郎　白井貞藏　山崎與三郎　柏原左源太　諸橋久太郎　安島重三郎　高岡唯一郎　白井遠平　吉田房太郎　中澤時三　小林藏次　高野安太郎　小野賢司　木村清治　阿部貞助の十五氏は常評議員となり之に發起人會にて公選せられたる評議員一口以上四口以下の評議員は引續き四十二年の改撰期迄は依然其任に在るを以て評議員は合計廿五名なり

▲資金納附　資金は毎年一口に付十月二月六月の三期に一圓宛納附する規定なるも發起人會に於て來四十一年九月より學生の貸費を開始する事に決したるを以て四十年度分第一期即本年十月第二期四十一年二月第三期即四十一年六月の三期分を繰上げ本年八九十の三ヶ月內に納附する事に是亦發起人會にて議決したるものなり故に今一口に付三圓を納附せば四十一年の六月迄の分は完納となるわけなり

▲福島支部　早晩福嶋市に在る磐城鄕友會と合併して學舍を設置し當地方出身學生を入舍せしむる筈なれば父兄は其學舍に子弟を委托せし方安全にして經濟的なるべし但是は石城郡及舊楢葉郡出身者に限る

▲貸費返納　規則第廿八條を改正して貸費の返納は場合により卒業後二ヶ年目よりとせらるべしと

▲私立學校　會則第一條に官公私立學校とありて私立學校をも含むものなり

▲發起人の不入會　本會發起人にして未だ入會の手續に及ばざる人もあるが斯る人は早速入會せらるべし

▲事務所　全會事務は縣立磐城中學校內にて取扱ふにより全會に關する事はすべて全所に照會せらるべし

▲特志者寄附　磐城地方出身者の經營に非ざる各炭礦會社煉瓦會社製鹽所等にも全會の事業に同情を表し寄附金の申込みもありたる由なるが全會にては特志者の寄附は多少に拘はらず受領すとの事なれば進んで全會の事業を翼贊せらるべし

▲出資口數及氏名　確定の分左の如し

一參拾口　一貳拾口　柏原左源太　一拾五口　一拾口　唯一郎　一五口　林藏次　清次　一參口　兵衛　之助　一貳口　白石信愛　○植竹源太郎　△松本與三郎　○佐々木源滿　○大平內藏吉　芹澤忠次郎　明智淺吉　大平又一　谷口仁太郎　○新妻酉五郎

○山崎藤太郎　○白井貞藏　○諸橋文太郎　○安島重三郎　高岡唯一郎　○吉田房太郎　○高野安太郎　阿部貞助　○横內直溫　○青沼銖太郎　○高木之親　成田直忠　○小野庄助　村上則敏　○齋藤龍安　關內米三郎　新妻酉五郎　鈴木堅助　大森鎮平

○山崎與三郎　○白井遠平　○中澤時三　小野賢司　○中野忠次　青木智晉　關內市重　○高宮尙二　○安嶋直八　○下山田嘉七　山崎吉平　中村一貞　中島遂四郎　大谷久藏　丸山禮助

○　○高岡　○小　木村　鈴木常　四家又

一壹口　櫛田榮太郎　三瓶仙輔　△飯田一二　海野文藏　門島貞藏　○吉田至誠　草野三郎　○村上清通　△菊地安通　○加藤豊之助　△猪狩文郎　伊坂員正　○鈴木雄次　○松岡太愿　佐川保吉　○山口入　○小泉谷之　○齋藤昌規　○鈴木衛平　閭田嘉三郎　●內藤諒太郎　○鈴木次郎　△新妻誠一　○秋山清太郎　○山崎久次郎　△大井川已之助　△渡邊寅次郎　生駒東一　○大津賀善吉　△大島久治　草野七三之助　小嶋末茂　味岡禮質　閼農夫雄　松崎松太　志賀長次郎　志賀要七　吉田由三郎　猪狩金之助　酒井國三郎　長瀬延太郎　高槻忠政　△赤津作太郎　△安島富吉　小松新左衛門　△赤津小四郎　△安東武雄　眞邊仙一　坂本秀松　鈴木喜兵衛　○大谷伊佐吉　鈴木富太郎　○酒井義孝　△金賀彥惣　神尾精一　熊谷長治　○市原卯太郎　平澤勇吉　齋藤勝明　○馬目爲太郎　淺井喬一　新宮新太郎　馬場豊次郎　清水好正　吉田久治　大平定吉　岡部要助　○高木直枝　齋藤又郎　松崎長三郎　柏原幸次郎　根本久次郎

○岡田數三郎　遠藤要　眞木龜太郎　會田照次郎　中根卯之松　草野晴次郎　○藤本會登吉　△吉田政久　永山菊治　中山元司　○和田龍太郎　○諸橋國松　○三田智周　○梅村次脩　△小野甚太郎　○鈴木大藏　○佐川平吉　○佐藤忠之丞　秋山喜一　○近藤彌作　○菊地圓　○大和田政吉　鈴木靜　野崎武兵衛　大河原五藤太　岡田宵吉　倉田龜吉　堀江正直　堤光顯　松村高知　○岡田治作　△佐藤文松　△遠藤平兵衛　△羽岡平三郎　白土矢柄　水野忠治　△鳥海惠助　△小山祐五郎　△與野山熊男　坂田藤助　白土四郎　○御代武兵衛　渡邊道純　秋元國太郎　△大平兵助　○草野萬吉　△鈴木清八　北條猛次郎　箱崎彥治　△蛭田一也　木田織扛　廣瀬銑一郎　○柳內兵右衛門　△篠崎茂左衛門　鈴木平助　○馬目惣助　吉田禮次郎　○石川銀作　○志田靜彌　村上庄治郎　鈴木兼政　△小田倉俊　漆原昌德　吉田正義　鳴初五郎　若松留次郎　△澤田正海　永山定秀　國府田知治　小柳兵平　武川敎義　栗原傳次郎

○田子長三郎　○木川金太郎　○齋田奉盈　本城藤一　松本龜藏　○日向英行　平松久徵　△大坪雪江　○山崎留治　江尻庄作　○松本龜吉　○森本盛一　●岡部敬誠　○大平文平　△鈴木常松　○中村立躬　○逆見繁　上遠野藤次郎　吉田新之助　○吉原與平　○中山典禮　長壽男　△鈴木平重　○大橋二郎　下山田福太郎　富田淸彥　加納五郎　殿木鐵治　田巻造酒之助　鈴木長十郎　三井常松　○三森慶次郎　△吉田春照　△大平米治　柳內芳之助　立花勇七　鈴木茂平　○新胃善次郎　根本仙三郎　長瀬廉平　△木田彌平　赤津庄兵衛　渡邊四郎　△小松金兵衛　小松淸次郎　△山崎宣吉　○荒木三郎　千葉眞弓　高木長吉　粟野善佐　遠藤甚右衛門　大瀧友隣　加藤丈夫　○渡邊庄助　△星野庸治　○阿部乙三郎　△佐藤つる　△綠川萬次郎　○蛭田半平　永山末藏　酒井渺左衛門　坂本隆藏　加治鐵雄　佐原久道　酒井清次　久保木吉房　△高木已之吉　△大越甚太郎　石川久米多郎　松崎翦三郎　野木兵造　黑木房敎

野田庸信　齋藤淺次郎　鈴木精平　木田喜一郎　植竹琴　小松學俊　大舘己之吉　○江尻敎彌　野崎良作　白石長內　小野鶴吉　三井理八　大木哲之助　○吉田久治

熊谷松次郎　高木酉次郎　小野忠五郎　鈴木市太郎　武藤英武　吉田喜久藏　永山子之太郎　野崎喜代松　白土吉三郎　草野長三郎　井村與安　○中村直敬　加藤木周太郎　○吉田禮次郎

木田敏也　川嶋彌道直　木田茂造　◎大越つね　額賀啓爽　大平惟助　大野精　箱崎伊勢松　佐藤庄太郎　赤津亦太郎　綠川信八　永山泉七郎　瀧由松

計口數　五〇七

金額　一万〇六百四十三圓

內　一口即時納金十七圓

（以下次號）

○は四十年度資金完納△は四十年度第一期分納入●は四十年度第一期第二期分納入◎は資金全部納入

ライオンはみがき　發賣元　小林富次郎

◎鈴木少尉の消息　石城郡出身にして第一師團步兵第一聯隊第二中隊附なる少尉鈴木謙吉氏が過般の特別大演習中茨城縣眞鍋町より寄せられたる書面に曰く『日々の情況を詳細に記述して通報したき希望なるも事情は之を許さず家屋に泊る事少く燈火なく時間なし六日より八日の晝迄は携帶口糧を以て飢を凌ぎ夜間敵と接せざる時は總に藁束の上に横はれり從て其間面白き事もあり軍事動作の趣味ある所など紹介するも益ある事と存じ候も今は仕方無之候云々』と

◎御斷り　本紙前々號に掲げたる『血染の艶書』に對し小川友治なる人より夢にも知らぬ事にて甚だ迷惑を感ずるにより事を投書したる人に申したき事ありとて長々しき書面を寄せられたるも紙面の許さゞるを以て掲載を見合せたり

金鶏印　ミルク　東京日本橋區大傳馬町　逸見山陽堂

◎婦人風會の活動　平町なる磐城婦人風會にては山梨縣に於ける過般の水害が頗る慘烈を極め目下飢餓に瀕せる窮民數千の多きを有するを以て救助の一方法たらしめんとて兼てより會員が製作中なりし手袋靴下帽子等の編物類の慈善販賣をなし其利益は擧げて寄附するとの事なれば同情ある諸君は來る三十日田町日本基督教會にて購求せらるべし

◎中學校の發火演習　磐城中學校にては廿二日石城郡平窪村方面に於て第四五年生の發火演習を行ふとの事なりしも本號の編輯に間に合はざりしを以て狀況の報導は次號にてすべし

和歌松石鹼　東京市京橋區新富町七ノ六　相馬帝國堂

◎平驛運輸概況　乘客は昨今減少の姿にて日々の乘降者各三百五十人內外なるも貨物は益々增加し每日の送出七百噸を下らず目下停滯貨物は好間炭百廿噸赤井炭二百噸其他雜貨百噸を有すといふ十月中に於ける輸送槪況は左の如し

▲發送之部

乘車人員	三、六八人	降車人員	一四、一〇九人
乘客賃金	四、二四、壹錢	通行稅	一八七、〇五錢
手荷物	三四個	小荷物	五二三個
運賃	一四三、八〇錢	無賃手荷物	八七五個
貨物通常扱	三二七屯	貨物貸切	二〇、三六九屯
全速達扱	八個	貨物運賃	一九、六六〇円
發着手數	二、二九、七〇錢	廳用石炭	三、五七三屯

▲到着之部

手荷物	三九三個	小荷物	八四五個
無賃手荷物	九三二個	貨物通常扱	六六五屯
貨物貸切	一、七三七屯	全速達扱	三個

◎吉田屋の蜜柑輸入　平町新川町吉田屋定太郎商店にては今回原產本場と特約して澤山着荷したるにより特別廉價を以て需用に應ずべしといふ

◎砂糖相場（砂糖問屋平町新川町吉田定太郎報）

AAA車	一六圓三五錢	布入ザラメ	六三匁
AA車	一六圓二〇錢	仝	六二匁
極上氷砂	四八匁五分	最上山吹玉	四四匁
山吹玉	四三匁	別品玉	四〇匁五分
最上萬中玉	三九匁	黑砂糖	六匁五分
極上和白	四九匁	和白	四六匁

竹行李、柳行李、山田蓙、相馬紙緣問屋　磐城平町白銀町　吉田商店

ば夏は納涼器歡迎せられ、冬は防寒衣切望せらる、同しく帽子といふも冬季麥藁帽を買ふものなく、夏季鳥打帽を用ゐるもの少し則ち商品は其の需用の季節自ら一定せるを以て、能く此時期を測りて廣告せざるべからず、春初花將に開かんとするの時に當りては流行衣を提供し、秋晩寒將に嚴ならんとするの時に際しては手袋外套を廣告するが如し、

◎戸籍吏例會　石城地方戸籍吏例會は去十三四の兩日平區裁判所內に開かれたり兩日とも高宮監督判事は清水監督書記を隨ひて臨席し各町村戸籍事務の擧否につき一々例を擧げて注意訓戒を與へ夫より同判事の戸籍上に關する有益なる講話ありて閉會せりと

◎就學旗下附　郡內小學校中今年度に入り就學旗を下附せられたるもの左の如し

◎製糸講習科卒業　去月十日石城郡蠶業講習所製糸講習科を卒業したる者は左の如し

（研究生）篠山ひさ　高萩てい　吉田たか

丁目山形樓に於て平町青年者發起となり本年度入營の壯丁に對し送別會を開く會する者百五十此日早朝より會場へは各國々旗を以て幔幕となし『歡送平町入營軍人』と云ふ大旗は軒頭高く翻り正午よりは烟火を打揚げ會衆の來るを待て午後二時開會發起人總代開會の辭を述べ入營者總代廣田德行氏答辭を陳ぶ配膳の間二三青年者の壯快なる演說ありき主客歡を盡して散會せしは午後

がない大事の袴も折々は酒の代に曲げられ袴なしで裁判所に出で頗る滑稽な手振りをしながら君すまないが其袴を一寸——▲懷中の温かな時の氣焔は素張らしいオイ馬車はどうした僕は此頃二頭馬車に乘ることにしたのだよ萬事この調子だから可笑しい▲氏は又女に掛けてもなか〳〵凄腕を持て居ると見え漢學者某の姿であつた何村とかいふ下宿屋の主婦をうまく說き落した爲めに漢學者は大に燒いて度々何村下宿屋に怒鳴り込んだとの評判もある

官鹽

一當會社は四十年二月十五日の設立に有之候

一當會社の資本金は金參拾萬圓に有之候

一當會社は特許低壓式製鹽裝置複熱式製鹽裝置を併用製造仕居晴雨に拘はらず多數に産出致候

一當會社の製鹽は一等鹽、二等鹽、三等鹽に有之四等以下の品は製出不仕候

一當會社の製品は普通叺入正味四十斤造に有之殊に釀造用に適し申し候

一當會社は販賣部を設け其の筋の指定を受け當會社製品全部を引取殆ど無手數料にて販賣仕候

福島縣石城郡小名濱町
小名濱製鹽株式會社販賣部
本社　東京市京橋區木挽町九番地
製造所　福島縣石城郡小名濱町小名濱工場
　　　　茨城縣多賀郡磯原磯原工場

京御菓子司
山
花澤堂
平町停車場前

團扇扇子
蜜柑 **問屋**
略曆臺紙

品質精選一層誠實勉強仕候條不拘多少に御注文仰付被下度候

東京日本橋區堀江町二丁目壹番地
大和屋商店
電話浪花三三七一番　電信發送略符（ヤ）

平町五丁目
遠藤齒科醫院

星野齒科醫院
（平町一丁目）

機械製麵
砂糖荒物國産紙類
白土加本店
雜貨問屋
平町二丁目
白土屋茂平

荒物　砂糖　石油　銘茶　洋酒　製墨　石鹸各種

諸國磁器直輸入

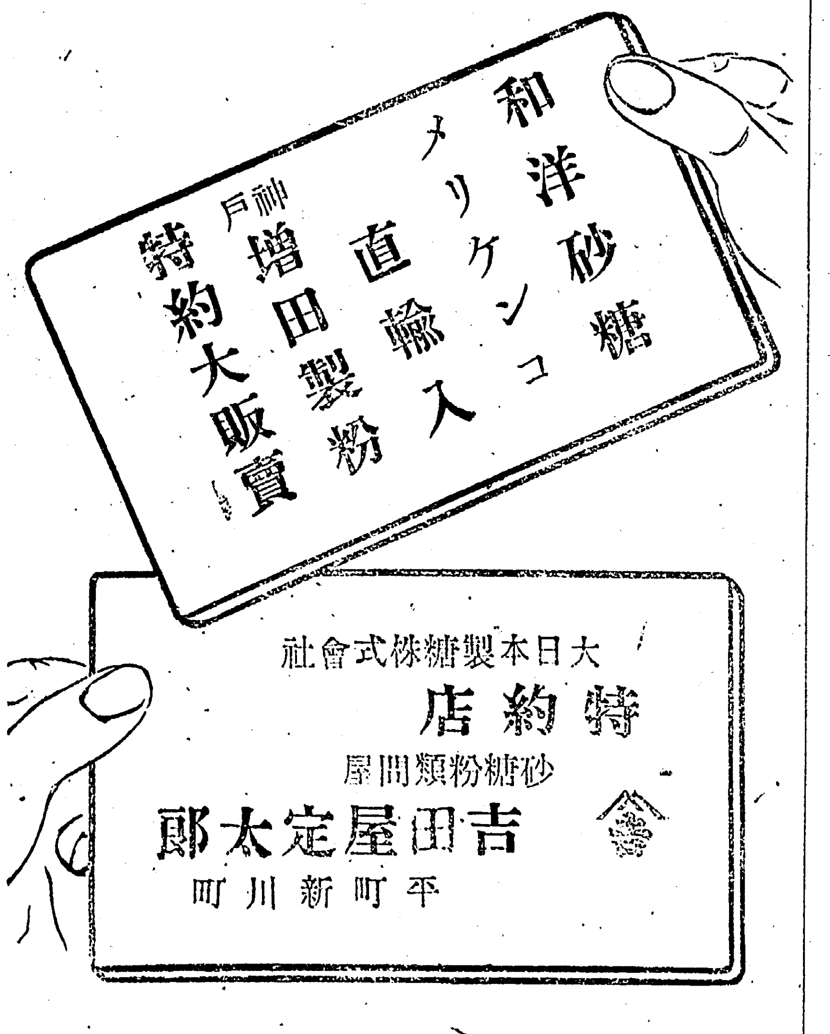
猫印マッチ特約販賣
雜貨卸商
長
平町新川町大室屋
松崎長三郎

小泉石材營業所
磐城平町新川町
所長　黒木房教
主任　白土龜吉

北郷内外科醫院
（平町停車場前）

眼科專門
徴兵適齢者並に學校生徒には治療料輕減の規定あり殊に貧困者には無料にて治療の規定あり
中嶋眼科醫院
磐城平町紺屋町

精撰牛乳
乳質純良
消毒完全
配達迅速
磐城平町北目町
磐城牛乳舍



和洋砂糖
メリケンコ直輸入
神戸増田製粉
特約大販賣

大日本製糖株式會社
特約店
砂糖粉類問屋
吉田屋定太郎
平町新川町

新聞雜誌及書籍類卸賣業
（いはき）特約販賣致候ニ付御注文被下度候
東京市京橋區南八丁堀一丁目二十六番地
平陽社
振替貯金口座七四壹

磐城平吉田禮次郎謹製
吉田家傳ぢのくすり
（一週間分七貼入金貳拾五錢）
いぼぢなつこぢはしりぢむねのはりかみのけのぬけかすんのいたみめのたゞれ痔病一切によし

縣下大取次
郡山　根本祐太郎
白河　松井平助
二本松　藤井徳次郎
三春　木村忠助
福島　[illegible]
本宮　若井屋安松
白河　井上敏
小高　小林順生堂
仝　柏屋藤八郎
浪江　林治兵衛
富岡　菊地喜久雄
平　佐々木節太郎
四倉　新妻
中村　重助
鹿島　只野元
[illegible]
久ノ濱　白石屋久太郎

（明治四十年五月廿七日第三種郵便物認可）

いはき

第十號

毎月三回　五日　十五日　廿五日　發行
定價一部金一錢五厘外ニ郵税五厘
廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢回數行數ニヨリ割引ス
發行所　福島縣石城郡平町字白銀町二番地　いはき社
編輯人高木朝直　發行人吉田禮次郎　印刷人高城寛雄

言論

水産學校問題

の論者もあらんが、今日の貧弱なる郡歳入中より水産學校の經費を支出することは、

雜録

ぬからとて二週三週甚だしきはそれ以上も洗はずに着用するとは暗夜に毒を飲むとしとにて恐の甚しきものに候白地はも着れば汚れ目が見ゆて如何に怠ける妻君でも見て居られぬから洗濯すべく黒地は永く汚れ目が見えぬ故に永く洗濯せずに着用し却て害多し故に夏は勿論冬も肌着などは白地を用ふが自然衛生に適ひ申べくと存候

へた頃終列車に乗後れないようにとて紫雲子は去た夫から冷めたくなつた澁茶を啜り一週間乍ら今年中もう一度集まる事を約して別れた發起人に届かぬ所が多かつたにも拘はらず近頃に無い愉快を得たのは偏に會員諸君の御熱心によることゝ厚く御禮を申上げて置きます又われらの會の門戸は常に開放してありますから澤山御入會を願ひます席上

又
此山水晶在、遺火是以朝、初疑螢如影
忽來懸樹稍

又
水精之山何險峻、待間幽卉千萬仭、
行者悸慄怯崩落、前挽後擁始得進、
梵閣崢嶸在層巔、不知創造果何年、
超然負用凱麗表、古檜老杉上刺天、
林子不是香火客、勝遊欲賞山水癖、